

令和4年生駒市教育委員会第5回定例会会議録

1 日 時 令和4年5月23日(月) 午前10時00分～午前11時16分

2 場 所 生駒市コミュニティセンター 402・403会議室

3 審査事項

(1) 報告第5号 令和4年度園児・児童・生徒数について

(2) 議案第16号 令和4年生駒市議会第4回(6月)定例会提出議案の意見について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育子ども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育総務課長	山 本 英 樹	教育指導課長	前 田 伸 行
幼保子ども園課長	松 田 悟	幼保子ども園課指導主事	喜 多 美 枝 子
幼保子ども園課指導主事	湯 川 祐 美 子	子ども総務課長	武 元 一 真
子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	西 野 貴 子	図書館課課長	錦 好 見
スポーツ振興課長	西 政 仁	学校給食センター所長	古 林 像 一
教育指導課課長補佐	花 山 浩 一	教育政策室長	日 高 興 人
幼保子ども園課課長補佐	福 山 清 美	子どもサポートセンター所長	若 狹 美 登 里
図書館南分館長	谷 江 真 美 子	生駒駅前図書室長	入 井 知 子
教育総務課(書記)	佐 竹 裕 介	教育総務課(書記)	吉 川 優 香

6 傍聴者 2名

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

古島委員：いじめについてのアンケートは、1年間で6月の1度だけか。

前田課長：9月にも実施している。

中川委員：アンケートについて、集計の報告はどのように行い、結果はいつ頃に分かるのか。

前田課長：先ほどの回答を訂正する。2回目のアンケートは9月ではなく、11月である。報告について、学校に提出していただいた月例報告を集計し、例年3月に県へ報告している。その後国がまとめたものが秋頃に発表される。今年度の秋には、令和3年度の調査の結果が報告できることになる。

神澤委員：アンケートは決まった様式があるのか、もしくは学校独自のものか。

前田課長：各学校にて作成されているものである。

花山補佐：6月のアンケートは県から様式を配布されている。11月については、ほとんどの学校が6月と同じものを使用しているかと思うが、独自の用紙を作成している学校もあるかと思う。

神澤委員：アンケートについて、記名か無記名かについて教えてほしい。

花山補佐：無記名である。しかし、アンケートの後も子どもたちが相談しやすいような雰囲気作りを意識している。

神澤委員：無記名でないと正確な調査ができないが、一方で誰が記載したのか分からないため実態把握が難しくなることが課題である。手伝えることがあれば是非協力したい。

飯島委員：今年度のまとめは来年度の秋になるとのことである。数値の報告は来年度で良いが、早急な対応が必要な事案について、迅速な対応は可能か。

花山補佐：月例報告の数字の集計が秋に行われるだけで、対応は発生時に都度行っている。

原井教育長：アンケートには、いじめを受けたことがあるかという当事者視点の内容もあれば、いじめを見たことがあるかという項目もある。アンケートをきっかけに実態把握ができるようなものを活用している。

伊藤委員：いじめに限らず目安箱を設置している学校があるかと思う。そのような体制を取っている学校はいくつあるか。いじめは繊細な問題であるので、無記名の投書の扱い等難しいとは思いますが、子どもの声を聴くチャンネルを増やして、これからも工夫してほしい。

坪井委員：いじめの低年齢化に伴って、低学年でも理解しやすいようないじめ基本方針を作成いただきたい。

原井教育長：まずは学校の先生方に周知、理解していただきたい。その上で、学年に応じた方法で子どもたちへの教育を行ってほしいと考えている。

吉尾先生：子どもたちからの相談とは、担任が行うのか、他に相談員がいるのか教えてほしい。また、いじめの問題に限らず、日頃から人権教育やSDGsの教育にしっかり取り組んでいただきたい。

前田課長：中学校であれば、希望者と相談ができる期間を設けている学校がある。多くの学校では、アンケートの中で気になることがあれば、随時各クラスで面談をする等の取組で、無記名な中でもできる限りの実態把握に努めている。

吉尾委員：子どもたちとのカウンセリングが必要になってくるであろう。子どもや保護者とのやり取りについての研修等も大切になるかと思う。

○日程第3 報告第5号 令和4年度園児・児童・生徒数について

・令和4年度園児・児童・生徒数について、松田幼保こども園課長、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p1>

(質疑)

飯島委員：小中学校の生徒・児童数において、昨年度と比較してあすか野小学校では82人減、その他の学校でも40人前後減と非常に減少しているように感じる。教育総務課にて児童生徒数の見通しを立てているかと思うが、大きく外れていた箇所はあるか。

山本課長：転出入についての予測は難しいが、ある程度推計していた範囲である。

伊藤委員：園児数について、今年度4月時点の待機児童は何名いたか。

松田課長：10名である。しかし申込希望用紙に6園以上記入した場合のみが、実質待機として数えられる。

伊藤委員：では6園以上記入した方に限定しない場合はどうか。

松田課長：その場合の待機児童は88名である。しかし、この中にはあえて入所意思なしにチェックを入れ、1園しか記入していない方も含まれている。申し込んだ上で希望が通らず入園できなかった場合に、育児休暇の期間を延長することができる職場があるようだ。理由は様々であるが、このような入所意思のない方も88名の中には含まれている。

伊藤委員：その方々を抜いた数は分かるか。

松田課長：数えていないので詳細は分からないが、少なくとも入所意思なしにチェックを入れているのは27名である。

伊藤委員：実質待機の10名の他に、おおよそ60名前後の待機児童がいると理解しても間違いはないか

松田課長：その通りである。どうしてもお勤め先の経路やお住いの地域等の都合によって、6園以上記入できない方がいると考えられる。

- 伊藤委員：一見、10名という数字は少なく思ってしまうが、実態は70名程度と考えるとやはり深刻な問題だと思う。さらにもう1点、昨年度話し合いをしたなばた幼稚園が既に基準を下回っている状況が気になる。これから様々な取組をしていくところかと思うが、もっと積極的な手段を打って出なくてはいけないのではないかと。現地点での具体的な案を知りたい。
- 松田課長：保護者、地域、園や行政で取組を進めていく。役割分担をすることで、地域や保護者の方々にだけお任せすることがないようにしたい。そのため現在は、それぞれができることやできないこと、スピード感をもって対応できること、時間をかけて進めること等を整理しているところである。行政としては、例えば園支援システムの導入を進めている。これにより園への欠席連絡を電話ではなくオンライン上で伝えることができるようになり、保護者負担を軽減できると考えている。
- 原井教育長：「えん・くろす」というものは再編を防ぐためではなく、小規模園のデメリットをどうメリットに変えていくかという趣旨で行っている。子どもたちにとっては、「より多くの体験やより多くの人とのコミュニケーションを通じて成長させていくこと」。保護者にとっては、「多様な保護者ニーズにどう答えていくかということ」。地域にとっては、「園の活性が地域の活性に繋げることができないかということ」。この3つの目的に向けて、「えん・くろす」を立ち上げている。児童数の減少という問題は、2園だけでなく市全体の課題でもある。2園をモデル園として市全体にとって良い取組になればという思いで進めている。
- 吉尾委員：おっしゃる通り、市全体の幼稚園教育と保育について考えるべき時期である。今は保護者が就学前教育を選ぶ時代である。1点質問がある。壱分幼稚園の園児数増加の要因は、こども園化になることが地域に広まったからなのか。
- 松田課長：地域でこども園化の話がどこまで広がっているかの実態は把握できていない。開発等の影響も考えられるので分からない。
- 飯島委員：進め方について、大まかな枠組みについては地域や保護者と共有していくかと思うが、具体的な目的についても、優先順位や行政としてできるサポート等を共有し、今後再編のないように進めてほしい。
- イルズ委員：なばた幼稚園と壱分幼稚園について、周辺の大規模開発の話が進んでいる。今後そこに移り住んでくる方々を誘致するにあたって、園や学校の存在は十分魅力になる。場合によっては園児数が倍以上になる可能性もあるだろう。その上で、来ていただけるように魅力をより高めてほしい。もう1点、小中学校について、一極集中が見られるかと思う。幼稚園や保育園については生駒駅周辺に多く集まっているように思うが、これについては利便上仕方ないかと思う。生駒南中学校と大瀬中学校については、校区の見直しを急がれると思うが、今後の見通しが知りたい。

山本課長：生駒南中学校及び大瀬中学校については、今年度校区のことも含めて地域との話し合いをしていきたい。その後どのように進めるかが決まってくるかと思う。

イノズ委員：そろそろ具体的に進めていかななくてはならないかと思う。一極集中についてもう1点、上中学校へ集中しているように感じる。2008年と比較し、全生徒数が520名から655名へと増加している。市内全体としては生徒数が減っている中で、上中学校が増えていることが気になる。これについては今後紐解いていく必要があるかと思う。上中学校へ通うことで進路が左右するような噂も聞く。学校の魅力に大きな差が出ないようにしなくてはならないのではないかと。市としてはどう考えているか。

山本課長：数年前に集合住宅が建ったので、その影響もあると予測される。魅力とあったが、逆に上中学校を避けたいという相談も受けている。そのため一概に上中学校を魅力に感じて通われているとは限らないのではないかと感じている。

原井教育長：中学校は、校区の境界線で近いからというような理由で選択することはできない。そのため私も住宅の開発等による増加だと解釈している。

古島委員：私は西白庭台に住んでいる。私の子どもは生駒台小学校に通っている。様々な要因があるかと思うが、制服のあるなしや、小学校の段階で中学校を見通して選択している方も多いかと思う。実感としては生駒台小学校とあすか野小学校は同じくらい混在しているように思う。

中川委員：保育所・こども園は議案書の1ページ分あるが、幼稚園は半ページ分もない。このことから親のニーズは時間の融通が利く園であると予想できる。そのニーズに応えることができなければ、それ以外のサービスが充実していても難しいのではないかと。なばた幼稚園の子どもたちが少ないこともかわいそうに感じる。大変かと思うが、時間の融通が利くような方法を探していただきたい。

坪井委員：上中学校について、私はあすか野小学校の地区に住んでいる。奈良交通が西白庭台からあすか野小学校へバスを出しているようであるが、本数が減ってきている影響を受け、生駒台小学校へ通うことにした方もいると聞いた。生駒台小学校へのバスはあるのか。

山本課長：生駒台小学校へのバスについてもこの3月で減便しており、朝と夕方に1本ずつとなっている。バスの本数が減ると学童利用が難しくなることも課題である。今後のバスの運営状況については、市から要望は出すが、奈良交通の経営もあるので難しいところである。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 議案第16号 令和4年生駒市議会第4回（6月）定例会提出議案の意見について

- ・令和4年生駒市議会第4回（6月）定例会提出議案の意見について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p2>

（質疑）

坪井委員：工期が延長されることで、運営の開始日時も変更となるのか。

古林所長：令和3年に着工した工事を、令和5年1月31日まで工期延長するものである。工期がずれることで他に影響はない。

奥田部長：すでに令和3年度に着工はしているが、ボイラーの部品の材料の入荷が遅れていることから当初より遅れが出ている。給食の調理については影響はない。

飯島委員：今朝の新聞で、給食にも卸している洗米工場に鳩が入り込んでいたという記事を見た。このような場合、給食センターが責任を負うことになるため、抜き打ち的に監査や検査をする必要を感じる。現在そのような対応は行われているか。

奥田部長：これまでも何度か業者とのトラブルについて報告を受けている。パンの工場が火事にあってしまったことや、ご飯の業者の機械が止まってしまったことにより、供給ができなかったことがある。学校給食会でも目を光らせているが、監査の必要性は生じてきていると感じている。議題として学校給食会に提出しつつ、市としても可能な限り取り組みたい。報告は受けているが現地に出向いてはいないので、その辺りも検討の余地があると考えている。

飯島委員：引き続きお願いしたい。

審議結果 【議案のとおり可決】

○日程第5 その他

- ・市長専決処分の報告について、武元こども総務課長から説明

（質疑）なし

- ・生駒南第二小学校適応指導教室の進捗について、花山教育指導課長補佐から説明

（質疑）

伊藤委員：市内の全児童が対象ということであるが、現時点で申込みは始まっているか。

花山補佐：不登校等の学校に関する相談は教育支援施設で受けているが、今回開設される適応指導教室の入室等についてはまだこれからになる。

- 中川委員：個別に困っている子どもへの支援は大切である。他市では、相談を受ける以外に授業を受けられる環境を作っている例もあるようだが、生駒市ではどのように運営していくのか。方向性を知りたい。
- 花山補佐：現在、学校の先生や指導主事等の派遣は考えていない。別室登校や何日かに1度なら学校に通うことができている子もいる。まずは学校に全く行っていない子どもを対象にし、家の外に出られるような環境作りを目指している。今後そのようなニーズがあれば対応していきたい。
- 原井教育長：指導員と支援員が2名決定した。入室した子どもがしたいことに対応できるようにしたい。様々な方との関わりから生きる力を身に付けて、ほっとできる居場所を作りたいと考えている。場所は生駒南第二小学校であるが、オンラインを通じて各教室に繋げることも可能であると考えている。
- 中川委員：様々な方向性が考えられるので、出来るところから長い期間をかけて取り組んでいただきたい。
- 神澤委員：楽しみである。しかし今後、障害があるかないか等グレーな子どもとどう関わるかが課題になるかと思う。手帳がある子でも通えるのか。
- 花山補佐：手帳がある子どもも対象である。
- 神澤委員：様々な子が来ると大変であると予想される。しばらくはどのような子どもが来て、どのようなニーズがあるのかをじっくり図りながら運営してほしい。その後、生駒らしい居場所作りをしてほしい。
- 吉尾委員：適応指導教室に通われる児童の籍は、地域の小学校にあるのか。適応指導教室という名前であるが、学校への適応か、社会への適応か目標はどちらになるか。
- 花山補佐：自分が自分らしく生きることを目的としているため、社会への適応ということになるかと思う。
- 吉尾委員：在籍は地域の小学校になるか。
- 花山補佐：その通りである。
- 原井教育長：適応指導教室に来た日は出席扱いになるかと思う。この取組は学校に行くことが目的ではない。様々なことに取り組む力や、人との関わり方を身に付ける等して、生きる力を育むための場所になってほしい。
- 坪井委員：非常に楽しみである。2点質問がある。まず、カウンセラーは常時配置しているのか。次に2点目、通学補助については考えているのか。
- 花山補佐：カウンセラーについて、週に1回4時間を考えている。通学補助について、小学生であるので基本的には保護者の送迎を考えている。
- 伊藤委員：学校に戻すことが目的ではないという点が、新しい発想で大変良いかと思う。しかし、学校に行けないことで学習が追い付かなくなり、焦る子どもを多く見る。適応指導教室にいても学習の保障はされるのか。
- 花山補佐：勉強については、オンラインで教室を繋ぐことが可能である。また、AIドリルの活用も考えている。

原井教育長：カリキュラムについて、個別に対応できる時間と集団で活動する時間を分けて、個別に対応できる方法を考えている。

伊藤委員：難しいチャレンジではあるが頑張してほしい。

神澤委員：カウンセラーについて、週1回4時間ということであるが、足りないと思う。臨床心理士会では、現在スクールカウンセラーの常勤化が考えられている。生駒市で先行して週4日か5日配置できるようにご検討いただきたい。

原井教育長：初めての試みであるので、皆様の意見を聞きながら協力して進めていきたい。

・令和4年6月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明（質疑）なし

○閉会宣告

午前11時16分 閉会